

ますずな

KIZUNA

2

2022年
令和4年

特集 社会と人権

相互に認め合う社会へ



INDEX

- 2 「コロナ禍と差別・中傷」
津久井 進さん (兵庫県弁護士会 会長)
- 3 「「思いやり」でブレークスルーを」
根本 かおるさん (国連広報センター 所長)
- 4 「ただいま、おかえりっていいあえるまちに
～シトラスリボンプロジェクト～」
新温泉町立浜坂中学校 体育委員会
- 5 「ほんとうは身近にいるはずの性的マイノリティ」
河口 和也さん (広島修道大学 教授)
- 6 「拉致問題の早期解決を願う」
拉致問題を考える国民のつどいin兵庫・神戸
- 7 「多様性の理解は足元から」
加藤 博文さん (北海道大学 教授)
- 8 情報ぷらざ



共に支え合う共生社会を実現するためには、誰もがお互いの人権を尊重し、新型コロナウイルス感染症や性的指向・性自認(性同一性)を始めとするさまざまな偏見や差別を解消することが求められます。そのことが持続可能な開発目標(SDGs)で掲げられた「誰一人取り残さない」社会の実現へとつながります。

本号では互いの違いを認め合い、相手の気持ちを考え思いやることのできる心を育み、人権を尊重する大切さについて考えてみましょう。

特集 社会と人権

コロナ禍と差別・中傷

兵庫県弁護士会

会長

津久井 進 さん



プロフィール

日本弁護士連合会災害復興支援委員会前委員長。経歴 平成5年神戸大学法学部卒業、平成7年弁護士登録。主な著書『大災害と法』(岩波新書)、『災害ケースマネジメント◎ガイドブック』(合同出版)

差別や誹謗中傷の方がこわい

私は、新型コロナウイルスそのものよりも、コロナ禍によって起きる差別や誹謗中傷の方がこわいと思っています。

人は、得体の知れないものに遭遇すると、これを排除しようとしてしまいます。とりわけ、感染症については「隔離」対策をとり続けられてきたこともあり、排除の論理が強烈にあらわれます。「あの人はコロナに感染した」という情報に接すると、本来、患者として守られるべき存在であるのに、「対策を取っていないのが悪いんだ」などと言って、嫌がらせをしたり、Webで実名をさらしたりするようなケースも少なくありません。

違うからこそみな等しく

差別を生むメカニズムは、「恐怖や不安の対象が見えない」、「公的情報への信頼が揺らいでいる」、「自らのために守るべきものがある」という状況が重なるのがポイントです。そう考えると、コロナ禍で差別が生じるのは残念ながら必然の成り行きといえるでしょう。もう一つ、大事なことがあります。災害などの危機に瀕すると、平時から社会が抱えている問題が表面化するということです。私たちは、平時から排除の論理や差別・いじめが日常化しているから、いざ事が起きたときにそれに拍車がかかるのです。

これを解決する鍵は憲法の中にあります。憲法13条では一人ひとりの個人を尊重

することが最も重要だと定めています。続く14条では差別を禁止しています。憲法学者の樋口陽一先生(東大名誉教授)は、平等権の意味を「ひとびとはみな等しくないのです。等しくないものを、そのあるがままに尊重すべきことも大切…(中略)…等しくないからこそ、人間の尊厳という一点でみな等しくあるべきなのだ」と説明しています。

社会全体で包摂する

コロナ禍の差別や中傷に打ち克つには、一人ひとりの個人の尊厳を尊重する姿勢を、普段から身に付け、困難に陥った人を一人て孤立させるのではなく、社会全体で包摂していくことが必要です。様々な法的手続に、そうした思いで臨みたいのです。



「思いやり」でブレインクスルーを

国連広報センター

所長

根本

かおる

さん



プロフィール

テレビ朝日を経て、1996年から2011年末まで国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）にて、アジア、アフリカなどで難民支援活動に従事。ジュネーブ本部では政策立案、民間部門からの活動資金調達のコーディネートを担当。WFP国連世界食糧計画広報官、国連UNHCR協会事務局長も歴任。フリー・ジャーナリストを経て2013年8月より現職。

兵庫県は古くから交易や交流で栄え、異文化や多様性を尊重する土地柄であると、同県出身者として強く感じています。新しい世界にチャレンジしようというオープンな気風のためか、国連には兵庫県出身の日本人職員が大勢います。国籍・民族・人種・宗教をはじめ異なる背景を持つ職員が働く国連では、人は違っていて当たり前。平和と安全・人権・開発という国連の設立目的の三本柱のもと、世界一多様に富む職場です。

誰一人取り残さない

2015年に国連総会で採択された17分野にまたがる「持続可能な開発目標（SDGs）」は、経済・社会・環境の側面を統合的に捉え、地球を大切にしながら、豊かで自分らしい暮らしを将来にわたって送れるように、2030年までに世界を変革するための枠組みです。その大原則は「誰一人取り残さない」という人権に基づく理念で、取り残されがちな人々の存在を最初から考慮したSDGs推進施策を

取ることを求めています。過去の途上国の開発理論では、国が豊かになれば、貧しい人にも自然に富が浸透すると考えられていましたが、現実はそのではないとの認識が、人権の包摂性に依拠するSDGsの大原則につながっています。

新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症の世界的大流行は、医療・健康の領域をはるかに越え、女性、子ども、若者、高齢者、外国人、障害者などの「取り残されがちな人々」に特に大きな影響を与え、「人権の危機」を招いています。日本でもギリギリの生活をしてきた人々が一気に苦境に陥り、見えにくかった課題が可視化されています。

女性を例に挙げると、雇用の面でコロナにより職を失う確率が男性よりも24%も高く、収入が減る可能性が50%も高いとの研究結果があります。女性と女兒に対する暴力もコロナ禍で増加しています。女性の貧困化や家庭内暴力の通報の増加は日本も例

外ではありません。

コロナ禍に陥る前から、SDGs達成の目途は立っていませんでしたが、コロナによってさらに遠のいたと言えます。

SDGs達成に向けて

ここまで深刻な状況を受けて、対症療法にとどまらず、社会の仕組みレベルでの根本的な対策を通じて持続可能な社会を作ることが必要だと多くの方々も痛感し、それが「誰一人取り残さない」を掲げるSDGsへの共感につながっていると感じています。ゼロ・サム（※1）の思考で社会の亀裂をさらに深めるか、それとも「おもいやりに基づくプラス・サム（※2）の協調でブレインクスルー（※3）することができているのか、私たちは今大きな岐路に立たされています。

神戸市のHAT地区には、3つの国連機関（世界保健機関 健康開発総合研究センター（WHO神戸センター）、国連防災機関（UNDRR）駐

日事務所、国連人道問題調整事務所（OCHA）神戸事務所）が事務所を構えています。皆さんの「お膝元」にある国連機関によるSDGs発信やコロナ禍を乗り越えようとする取り組みにも、是非注目していただければ幸いです。

WHO神戸センター

<https://www.unic.or.jp/info/>
[un_agencies_japan/whowk/](https://www.unic.or.jp/info/un_agencies_japan/whowk/)

UNDRR駐日事務所

https://www.unic.or.jp/info/un_agencies_japan/undrr/

OCHA神戸事務所

https://www.unic.or.jp/info/un_agencies_japan/ocha/

※1 一方が利益を得れば、他方がその分だけ損を被る。損益が0となること

※2 全体が拡大することにより、各部分もそれぞれに拡大することができると。損益がプラスとなること

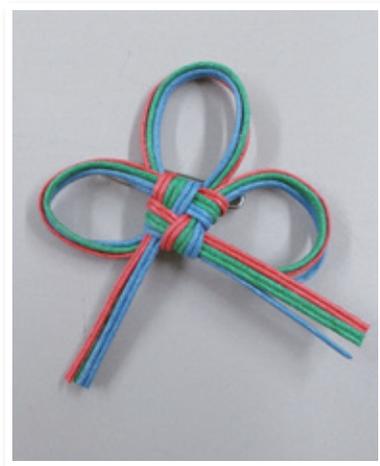
※3 障壁を突破すること



ただいま、おかえりっつていいあえるまちに 〜シトラスリボンプロジェクト〜

新温泉町立浜坂中学校 体育委員会

美方郡新温泉町浜坂7-1-185
TEL:0799-68211104



シトラスリボンプロジェクトは新型コロナウイルス感染症に関する差別や誹謗中傷を無くそうと愛媛県で始まりました。新温泉町でも中学生が中心となりシトラスリボンプロジェクトを推進しています。中心に活動されている問端さん、田中さん、川口さんにお話を伺いました。

Q 「シトラスリボンプロジェクト」を
始められたきっかけは

A 昨年新型コロナウイルス感染症により、町内でも感染者が出るなど、誰もが敏感に反応するよう
な状況がありました。そこで、何か
できることはないかと考え、シ
トラスリボンプロジェクトに取り
組むことにしました。

Q シトラスリボンに込められた
思いは何ですか

A 本来のシトラスリボンは「シトラ
ス色」ですが、私たちはふるさと
をイメージし、麒麟獅子の赤、海
と空の青、山と松の緑を使用して
います。郷土で古くから伝わる麒
麟獅子は他の生き物を傷つけない
公平の世のシンボルとして慕
われており、シトラスリボンに加
えることにふさわしいと考えま
した。また、3つの輪は職場(学
校)・家族・地域を、結び目は人を
表しています。

Q 活動の内容について

A 体育委員会が中心となってリボ
ンを作成し、地元スーパードヤ
パレードなどにおいて地域の方

へ配布を行いました。中学校内
ではもちろんのこと、新温泉町文
化会館や社会福祉協議会などで
も常設配付を行っています。ま
た、人権啓発講座ではシトラスリ
ボンを作る講座が設けられるな
ど地域にシトラスリボンプロ
ジェクトの輪が広がっていると
実感しています。

これからも、差別のない、新型コ
ロナにかかってもおかえり」と
いいあえる町になるように継続
して活動していきます。

Q 県民の方へのメッセージ

A 新型コロナウイルスに関する差別がまだ
起こっている地域もあります。
その差別をなくすためには、私た
ち一人ひとりの心ある行動が必

要です。シトラスリボンプロジェ
クトを通して、コロナ差別を少
しでも減らせるようにしていき
ましょう。そして兵庫県のどこの
地域の人でもコロナ差別に負けな
い幸福な社会を作っていきま
しょう。



左から、川口さん、問端さん、田中さん



ほんとうは身近にいるはずの 性的マイノリティ

広島修道大学 教授 河^{かわ}口^{くち} 和^{かず}也^や さん

社会のなかで見えない 性的マイノリティ

近年、社会では「LGBTQ+」という言葉も徐々に浸透してきて、性的マイノリティが注目されるようになってきました。しかし、社会では周囲に性的マイノリティがいるという認識はまだそれほど広がってはいません。2015年の全国調査では、性的マイノリティが周囲に「いる」と回答した人はわずか6.1%でした。こうして「いない」と思われてしまうことから、無意識のうちに配慮を欠いたり傷つける発言、そして差別が行われたりします。偏見・中傷や差別があることで性的マイノリティは社会で目に見えない存在になりにくいのです。その結果「この社会は、異性

愛でシスジェンダー※のものというところになってしまいます。

差異と多様性

多様性は、文字通りさまざま「差異」が認められることにより成立します。セクシュアリティやジェンダーの差異も多様性を形作るもののひとつです。一人ひとりの性(性的指向・性自認)が尊重される社会であれば、それぞれの差異に序列や優劣はなく、人びとはありのままに存在できます。そして「多数派である」と思っていた人たちは、この世の中にはいかに多様な性のあり方があるのかを認識し、自分の性のあり方は「多数派」のものではなく、様々な性のあり方のひとつでしかないと思

い始めます。

「共感」から始まる 人権に向けて

これまで「いない」あるいは「遠く」「関係のない」存在ととらえていた性的マイノリティは、じつは自分の隣人や家族のなかにも「いるかもしれない」と感じ始め、そして他者を知り、理解することは、翻って自分の性について知る第一歩にもなるでしょう。イギリスの歴史学者のリン・ハントは、「人権」というと固い制度としてイメージされがちですが、その考え方はまず「共感」から始まるものでもあると言っています。人を好きになるのは、異性愛も同性愛も両性愛も同じです。こうした性のあ



プロフィール

専門は、社会学、性とジェンダー、クィア・スタディーズ。最近、地方で生活する性的マイノリティの問題、性的マイノリティに対する社会意識と施策について研究しています。著書に、『クィア・スタディーズ』『同性愛と異性愛』など。

LGBTQ+



り方の違いを知り、理解することから始まる「共感」は、その違いを同等のものと感じるようにできるし、また、それらの間の距離や隔たりを埋めていく回路にもなるのではないだろうか。

※性自認と生まれ持った体の性が一致している人のこと



拉致問題の早期解決を願う

拉致問題を考える国民のつどい in 兵庫・神戸

拉致問題について

1970年代から80年代にかけて、北朝鮮当局による日本人拉致事件が多発しました。2002(平成14)年9月に北朝鮮当局は日本人拉致を認め、同年10月に5人の被害者が帰国しました。政府認定拉致被害者17人のうち、兵庫県関係者では有本恵子さん、田中実さんの2人が認定を受けています。そのほか、北朝鮮当局による拉致の可能性を排除できない行方不明者も数多くおられます。日本政府は、拉致被害者に関する捜査・調査及び情報収集活動を進めており、今後の動向が注目されます。

拉致問題は一刻も早く解決しなければならぬ人権侵害問題です。拉致

問題についての関心を高め、認識を深めていくことが大切です。

関心と認識を深める

令和3年12月18日に政府拉致問題対策本部・兵庫県・神戸市の共催で「拉致問題を考える国民のつどい in 兵庫・神戸」が兵庫県公館にて開催されました。

開会に先立ち、一昨年2月にご逝去された有本嘉代子さん(有本恵子さんの母)、一昨年6月にご逝去された横田滋さん(横田めぐみさんの父)、そして、開催当日の未明にご逝去された前家族会代表の飯塚繁雄さん(田口八重子さんの兄)3名のご冥福をお祈りする黙祷を行った後、政府を代表して松



有本明弘さん



横田哲也さん



吉見美保さん

写真提供：政府拉致問題対策本部

野博一内閣官房長官兼拉致問題担当大臣が「認定の有無にかかわらず、全ての拉致被害者の一日も早い帰国実現に向けて、あらゆるチャンスを見逃すことなく全力で取り組んでいく」とあいさつされました。

続いて、有本恵子さんの母嘉代子さんを偲んで、ビデオメッセージを上映し、さらに県立東播磨高等学校放送部山本祐実さんが、恵子さんのご両親から兵庫県内の中学生にあてた手紙を朗読しました。その中では「恵子が返ってくる日まであきらめません」とつぶられていました。

有本明弘さん(有本恵子さんの父)ご本人も登壇され、「どうすれば救出できるのか。生きてこの結末を見届け

たい」と訴えられました。また、拉致被害者家族会事務局次長の横田哲也さん(横田めぐみさんの弟)、特定失踪者家族会副会長の吉見美保さん(秋田美輪さんの姉)が登壇され、「一日も早い解決を」と訴えられました。

次に、龍谷大学教授李相哲さんは「拉致問題はなぜ解決しないのか」と題し、拉致問題の課題や解決に向けた提言を分かりやすく講演いただき、参加者は改めて拉致問題への認識を深めることができました。

国民のつどいは政府拉致問題対策本部公式動画チャンネルで視聴することができます。

<https://www.youtube.com/c/rachitachannel>

多様性の理解は足元から

北海道大学 教授

加藤 博文 さん



プロフィール

2001年より北海道大学助教授、2010年より北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授。専門は考古学。研究テーマは「先住民考古学」、「先住民文化遺産論」、「文化財返還」。2021年より学内に国際先住民研究のプラットフォームをスタートさせ、7カ国の研究者と連携した国際先住民研究の展開に取り組んでいる。

意図しない差別

2021年3月にテレビの情報番組でアイヌ民族に対する差別表現が放送されたことは、記憶に新しいと思います。この問題の根深さは、制作者側の「この表現が差別に当たるという認識が不足していた」という発言にその本質が示されています。

差別には、意図して他者を差別するものもあれば、無意識の偏見や無知が生むマイクロアグレッションと呼ばれる差別もあります。上記の例では「認識が不足していた」という発言が差別表現に加えて、更に「あなた達の立場や歴史を知らなかった」という無理解から、新たな差別を引き起こしています。なぜアイヌ民族の歴史や文化を知らなかったという状況が生じるのでしょうか。

知る機会の少ない先住民アイヌの歴史

日本列島には、大陸の端に位置し、細長く南北に連なる地理的特徴を背景に、地域性に富んだ多様な歴史と文化が各所に息づいています。しかし、近代化の過程では、日本の歴史は一つの国民の物語として語られ、地域性や多様な歴史と文化的な背景を学ぶ機会は多くありませんでした。また独自の言語や文化を否定するような政策が取られる中で歴史や文化の多様性は失われていく過程を辿ってきたのです。単一民族国家観はそのような政策として作り出された幻想です。北海道を訪れた人は、アイヌ語に由来する山や川などの地名からも、そこに根付いた歴史的な連続性を改めて理解することができるのでしょう。

多様性を認める社会へ

2019年にアイヌ施策推進法が施行され、アイヌ民族が日本の先住民であると明記されました。新しい学習指導要領に基づく小学校から高校の教科書では、アイヌ民族や琉球の歴史と文化についての記述が大幅に増えています。多様性は国際化においてのみ重要なのではありません。私たちの暮らし日本も多様性に富んだ歴史と文化で構成されています。足元の多様性を理解することが、異なるアイデンティティを持つ一人一人が自由に、自らに誇りをもち、違いを尊重し、安心して暮らせる社会を作っていくことにつながると思います。

映画紹介



© 2020 "再会の奈良"
Beijing Hengye Herdsman Pictures Co., Ltd.
Nara International Film Festival, Xstream Pictures (Beijing)

『再会の奈良』

日本に帰国した「中国残留孤児」の陳麗華からの手紙が途絶えて数年、八十歳に近い養母の慧明は心配が募り自ら日本へ娘を探しに来ました。同郷で孫のように世話をしていた「残留孤児」二世のシャオザーと、偶然知り合った元警察官の吉澤も麗華探しに加わります。

麗華は何処に。ミステリーさながらに解き明かされていくにつれ、気丈な手紙の文面と裏腹に麗華の辿った辛い運命が見えてきます。

英語もできない慧明が肉屋の店主と羊や牛の鳴き声を真似てやりとりしたり、とっさのロシア語で「バカ」（「またね」の意）と言って誤解されたり、言葉の壁は和やかな笑いを演出する反面、「残留孤児」とっては残酷な障壁です。地域社会に受け入れられず、定職につけず、血縁が見つからなければ日本にも中国にも帰る場所はない。

わが子が孤独の淵にいることほど悲しいことはない。子を残して引き揚げた親たちの悲しみが、また繰り返される。戦争は今も続く悲劇なのです。

- 監督・脚本：ポンフェイ
- 2020年/中国・日本/99分 ■ 配給：ミモザフィルムス
- 2月4日からシネリーブル神戸で公開 ■ お問い合わせは、078(334)2126

◆◆◆ 令和3年度「人権のつどい」を開催 ◆◆◆

昨年12月2日(木)に令和3年度「人権のつどい」を開催しました。この行事は「人権週間(12/4～10)」の意義を広く県民に周知し、「人権文化をすすめる県民運動」を一層推進するために行っているものです。コロナ禍の中、兵庫県公館で感染予防に努め開催しました。同時にオンラインでも配信し、多くの方々に参加していただきました。



ヴァイオリン/堀江 恵太さん チェロ/細谷 公三香さん
ヴィオラ/大槻 桃子さん ピアノ/山中 歩夢さん



「のじぎく文芸賞」の表彰式に始まり、ピアノ4重奏の「ハートフル人権ミニコンサート」、人権講演会では、兵庫県公立大学法人芸術観光専門職大学学長の平田オリザさんが登壇されました。「SDGsと人権～誰も取り残されない社会の実現のために～」と題した講演は、「旅行ですか?」という一つのセリフからその言葉に込められた意図をくみ取り、相手の立場を理解することに「多文化共生」「子育て」「インターネットの誹謗中傷」など、多くの人権課題を考えるきっかけとなるという事例などを交えて、大変わかりやすくお話しいただきました。

「多文化共生」「子育て」「インターネットの誹謗中傷」など、多くの人権課題を考えるきっかけとなるという事例などを交えて、大変わかりやすくお話しいただきました。

兵庫県人権啓発協会の 人権相談の電話番号が変わりました!



078-891-7877 (年末年始を除く)

受付時間：平日 9:00～17:00

コロナ差別に関する人権相談

期 間 1月20日から3月31日

受付時間 木曜 15:00～17:00

弁護士による専門相談です。



ひょうご人権ネットワーク会議全体会を開催

ひょうご人権ネットワーク会議(以下人権ネット)は人権に関する45団体18機関から構成されています。

12月2日(木)には兵庫県内における人権啓発活動、人権救済活動などを重層的、横断的かつ効果的、効率的に実施することを目的とし、会議を行いました。

会議では「誰も取り残すことのない、人に温かい兵庫」を前進させていくために、各団体・機関で取り組まれている活動や様々な人権問題に関する情報交換が行われました。その中で問題意識を共有し、相互に連携協働し、人権文化をすすめられるよう話し合いが行われました。

